



# ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 28

## ～中東の ドバイ発展 その理由～

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

まずはクイズから。図1はいったい何か、おわかりになるだろうか？

それではヒントを。宇宙からみた衛星画像であり、直径は約5kmにも及ぶ。

本映像は海の中に飛び出した人工島で、パーム・アイルランドと呼ばれる。場所は中東のドバイ。現在、巨大な観光スポットが建設中で、100以上の高級ホテルと1400戸以上の別荘、商業エリアなど一大リゾート地になる。そういえば、IT産業のビル・ゲイツ、サッカーのデビッド・ベッカム、レーザーのミハエル・シューマッハなどの富豪が別荘を持っているのだった。最近ドバイが注目され、ちようど立ち寄る機会があったので、今月はこの話題に触れてみたい。

### ドバイは世界の中心

ドバイは国名ではない。アラビア半島にアラブ首長国連邦(UAE)がある(図2)。UAEとはUnited Arab Emiratesの略で、アメリカ合衆国(USA, United



図1

States of America)と似る。本国は首長国(Emirate)を7つ束ねたもので、その一つがドバイなのだ。

いまドバイ国際空港が高く評価されている。世界の100数十箇所の空港と結び、24時間動く「世界のハブ空港」だ。同空港はドバイ、香港、英国のヒースローの巨大3空港と協力し、最新型の託送荷物無線ICタグの試験運用も近々に行う。また、エミレーツ航空の拠点の空港でもある。

このたび、私は同航空を利用して驚いた。まず価格が安い。エコノミークラスの座席でも、各自のディスプレイが設置。600以上の映画がon demandで自由に選び楽しめる。World

cinemaの中に、徳島で制作された「眉山」も。特別なワインを除き、アルコールを含みすべての飲み物やカップ麺も無料。隣にいた女子大学生の3人組は、カップ麺を袋一杯もらって外国へ。わずか10ドルで1万m上空でのメール対応も可能だ。これらのサービスで十分に満足できる。国際線の機上で、これ以上に必要なものがあるだろうか。同空港と同航空の戦略はすばらしい。今後、顧客の心をぐっとつかみ、さらに発展するだろう。近いうちに、航空業界でも経済業界でも、世界の中心になるような気がする。



アラビア半島周辺図

図2

### パームから発展

なぜパームという言葉を使うのだろうか？ 本来、palm treeは椰子(ヤシ)の木を指す。他に、palmは手のひらも意味し、いずれも同様な形だ。野球では、手のひらでボールを掴み投げる球種がパームボール。また、次第にコンピュータが小さくなり、机の上に置くものがデスクトップ、持ち歩くのがラップトップ、手のひらサイズが、パームトップである。

同国の歴史を調べると、伝統的にヤシの葉で編んだ帽子やバッグなどを製作していた(図3)。だから、

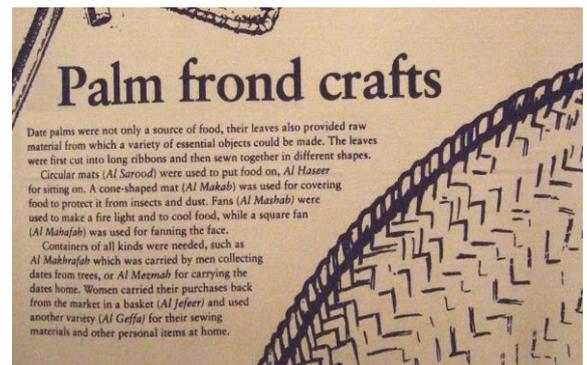


図3

その象徴としてDaimiを用いているものと考えられる。以前、人々の暮らしは、民芸品の制作や、穀物の栽培や運搬であった(図4)その後、一大転機が訪れる。石油が出て、経済的に大きな成長が始まった。1960年代のことである(図5)。このときの判断が、アラブ人の優秀なポイントであり、ターニングポイントとなった。当時は石油だけで莫大な収入があったが、将来を考慮し、産業の多角化や観光政策を展開させていく。その結果、驚異的な発展を上げたのである。

すでに、GDPで石油が占める割合は3%以下で、

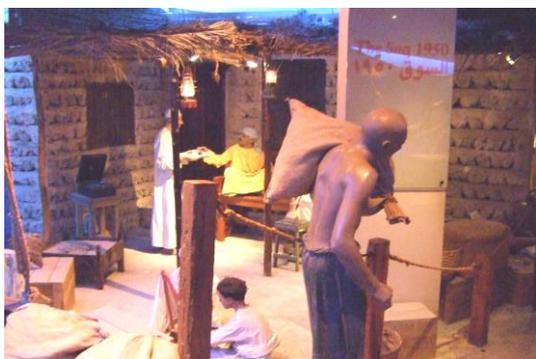


図4



図5

税金を取らず、世界中からも人も金も集まってくる。最高級ホテルや世界初の海中ホテル、世界一高いビルなど、いつも話題性に富む。日本で有名な2つのホテルが、図1の右下隅にある2つの点。海中の七つ星ホテル・バージュ・アル・アラブの入口から、人工砂浜とジュメイラ・ビーチ・ホテルを撮影したのが図6である。

ドバイの発展は近年特に凄まじく、原油高がさらに後押ししている。経済成長率は、2000-2005年は二桁、2006-7年は9.4%、16%程度、2008年は7.8%と予想されている。



図6

## 医療の視察

ドバイに滞在中、医療視察も行った。同国の特徴として、救急患者の診断と治療すべてが無料になる点が挙げられる。経済的に余裕があるからであろう。

大規模な公立ドバイ病院を訪問した(図7)。病院を玄関に入った箇所には、子供対象のコーナーもあり、ほっとする雰囲気を出していた(図8)。なお、**③医療の課題として、医師は外国から流入しているが、国内での医学教育の未整備があるようだ。**

## 豊かさが幸せか？

毎月、本誌エコジャを読むと、必ず良いことが。時間を忘れ、てんこ盛りの内容を楽しむことができる。少々経済にも明るくなるが、読むだけでリッチになれるわけではない。代わりに、家やマンションの立地条件がよくわかるようになるかもしれないが。

冗談はさておき。ドバイの経済には、確かに桁違いの発展の歴史がみられる。ゲイツやベツカム氏を真似して、ドバイに別荘を建てる(約7-40億円)のは無理だ。確かに、世界のセレブは、金銭面ではいいかもしれないが、人間関係で不仲となったり、訴訟になっ



図7



図8

たり、気苦労も多い。リッチ過ぎるのも、本当に幸せかどうかはわからない。その点、普通の生活を送っている我々は、こんな心配はしなくてもよい。あなたは、外国のセレブを羨ましく思うだろうか？

いま、不足しているお金を嘆くのではなく、常に身の回りに存在しているも気づかない小さな幸せを感じる大切だ。これを積み重ねることが、幸福で成功への鍵であり、そして近道ではないだろうか。

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)